

海外スタジアム事例

	ロンドンオリンピックスタジアム(英・ロンドン)	ANZスタジアム(豪・シドニー)	ソウルオリンピックスタジアム(韓国・ソウル)	スタッド・ド・フランス(仏・サンドニ)
				
・施設規模	延べ床面積: 108,500㎡、竣工2012年 オリンピック・パラリンピック期間中 80千人 改修後 約54千人	延べ床面積: 81,000㎡、竣工1999年 オリンピック期間中 約115千人 改修後 約83千人(可動席込み)	延べ床面積: 111,792㎡、竣工1984年 オリンピック期間中 約100千人 改修後 約70千人	延べ床面積: 不明、竣工1998年 約8万席
・施設所有者	LLDC(London Legacy Development Corporation) 大ロンドン庁(GLA)が100%所有する組織	Stadium Australia Group	ソウル市	フランス政府
・施設管理者	VINCI(仏)期間25年のコンセッション	Stadium Australia Group BOOT方式で建設、2031年1月にリース契約が終了、州政府に返却		Consortium Stade de France (株主: Bouygues社33%、VINCI社67%)、期間30年のコンセッション
・主な利用	2015年ラグビーワールドカップ、2017年世界陸上大会予定地 2016年よりUK Athletics利用予定(6月~7月末) 2016年よりイングランド・プレミアリーグ、ウェストハムの本拠地となる予定	2003年ラグビーワールドカップ プロスポーツ5種類(サッカー、ラグビーリーグ、ラグビーユニオン、オーストラリアフットボール、クリケット)12チームのホームスタジアム 陸上トラックはなし	2015年からソウルイーランドFCのホームスタジアム サッカー、陸上、国内外アーティストによるコンサート、企業イベント等 1986年第10回アジア競技大会 陸上トラック有り	1998年サッカーワールドカップ、2007年ラグビーワールドカップ フランス代表のホーム(特定のクラブチームのホームとする予定なし) (多目的スタジアム)サッカー、ラグビー、陸上、コンサート、モトクロス等 陸上は7月に(サッカーオフシーズン)開催
・収入・支出	不明 改修を経て、2016年夏に再稼働の予定	報道によれば2010/11年度で約200万ドル、2011/12年度で約670万ドル の損失計上(The Australian Financial Review 2013/5/27)	不明	収入約1.1億ユーロ(詳細不明)。Consortium Stadede Franceは イベントプロダクションを有す。支出不明。
・その他	建設費: 約4.3億ポンド、改修費: 約2.7億ポンド (改修費財源: £40m LBN Newham、£15m West Ham United FC、£38.7m Games Public Sector Funding Package、£1m UK Athletics、£3.5m London Marathon Charitable Trust、£25m Government £148.8m 2010 CSR settlement plus income generated on the Park through land sales and Profits from venues) 2012年ロンドンオリンピックメイン会場 (出典: NAO report/HP/media/Press release等を基に作成)	建設費: 約7.1億豪ドル、改修費(総工費)0.8億豪ドル (建設費 Multiplex(建設主体)5.8億豪ドル、NSW州政府1.3億豪ドル) 2000年シドニーオリンピックメイン会場 (出典: 平成20年度文部科学省調査業務報告書、一般財団法人自治体 国際化協会 Clair Report No414、HP等を基に作成)	建設費: 約463億ウォン 蚕室総合運動場全体(約400,000㎡)で約1,025億ウォン 1988年ソウルオリンピックメイン会場 (出典: ソウル市HP、ソウルイーランドFC HP等を基に作成)	建設費: 約3.9億ユーロ(政府が52%、VINCI社とBouygues社が 48%) (出典: 平成20年度文部科学省調査業務報告書、State de France HP等を基に作成)
	ウェンブリー・スタジアム(英・ロンドン)	トゥイッケナム・スタジアム(英・ロンドン)	エミレーツ・スタジアム(英・ロンドン)	シンガポールナショナルスタジアム(シンガポール)
				
・施設規模	延べ床面積: 不明、竣工2007年 9万席	延べ床面積: 151,200㎡、竣工1909年 82,000席	延べ床面積: 122,000㎡(階段工含む)、竣工2006年 60,355席	延べ床面積: 不明、竣工2014年 サッカー/ラグビー: 55,000席 陸上: 50,000席 クリケット: 52,000席
・施設所有者	England Football Association	Rugby Football Union	Arsenal Football Club	SSC(Singapore Sports Council)
・施設管理者	Wembley National Stadium Ltd.(FA個人会社)	Rugby Football Union	Arsenal Football Club	Sports Hub Pte Ltd. (IntraRed Capital Partners/Drageas Singapore/DTZ Facilities & Engineering Limited/Global Spectrum Asia等 で資本構成)
・主な利用	イングランド代表のホーム サッカー、ラグビー、アメフト、コンサート、モーターレース等 全日数27イベント程度	イングランド代表のホーム ラグビー 80試合 その他、イベント、コンサート等を開催	プレミアリーグ アーセナルのホーム(年間30~33日) コンサート年間2回程度 全日数30イベント強程度	サッカー/ラグビー国際試合 サッカー、ラグビー、陸上、クリケット、コンサート等 スタジアムウェディング その他、イベント、コンサート等を開催
・収入・支出	収入約75百万ポンド(内訳ボックス席、VIP席約50百万ポンド) 支出は非公表	収入約120百万ポンド(スポンサー90百万ポンド、その他30百万ポンド) 支出約5.5百万ポンド	収入は非公開 支出約11百万ポンド	非公表
・その他	建設費: 約7.7億ポンド(政府等1.4億ポンド、銀行融資4.3億ポンド) ロンドン開発庁0.2億ポンド) 2012年ロンドンオリンピックサッカー会場 (出典: 平成20年度文部科学省調査業務報告書等を基に作成)	建設費(2005年改修費): 120億円(南スタンド改修) ミュージアム、ホテルを併設 2015年ラグビーワールドカップ会場 (出典: 平成24年度JSC調査業務報告書等を基に作成)	総工費: 約4.5億ポンド(スタジアム建設費1.8億ポンド、土地取得等2.7億ポンド) (銀行融資2.6億ポンド、旧スタジアム用地売却益、現スタジアム周辺アパート販売等) ネーミングライツ: 約9,200万ポンド(スタジアム15年契約、ユニフォーム10年契約) ミュージアムを併設 (出典: 平成20年度文部科学省調査業務報告書、平成24年度JSC 調査業務報告書等を基に作成)	事業費: 約18億ドル(スタジアム他複合施設含む。) 可動式スタンド/可動式屋根/座席空調 周辺にインドアスタジアム、アリーナ、アクアティクスセンター、ウォータースポーツセンター配置 ショッピングモール(KALLANG WAVE)も併設 (出典: シンガポールスポーツクラブHP等を基に作成)